



## デバイス プールの設定

デバイス プールの設定では、複数のデバイスに共通の特性をまとめて指定します。デバイス プールには、次のデバイス特性を指定することができます。

- Cisco CallManager グループ
- 日付 / 時間グループ
- リージョン
- ソフトキー テンプレート
- SRST リファレンス
- 自動登録用のコーリング サーチ スペース
- メディア リソース グループ リスト
- Music On Hold (MOH) オーディオ ソース
- ユーザ ロケールおよびネットワーク ロケール
- SRST と Cisco CallManager 間の通信用のコネクション モニタ持続タイマー
- MLPP の設定値

デバイス プールを追加、更新、または削除するには、次のトピックを参照してください。

- [デバイス プールの検索 \(P.9-2\)](#)
- [デバイス プールの設定 \(P.9-4\)](#)
- [デバイス プールの設定値 \(P.9-5\)](#)
- [デバイス プールの削除 \(P.9-8\)](#)
- [関連項目 \(P.9-8\)](#)

デバイス プール、およびデバイス プールを通じて割り当てられるデバイス設定値の詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「システム レベルのコンフィギュレーション設定」を参照してください。

## デバイス プールの検索

ネットワーク内にはいくつかのデバイス プールが存在することがあるので、Cisco CallManager Administration では、固有の基準を指定して、特定のデバイス プールを見つけることができます。デバイス プールを見つける手順は、次のとおりです。



**(注)** Cisco CallManager Administration では、ブラウザセッションでの作業中は、デバイス プールの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、デバイス プールの検索設定は保持されます。

### 手順

**ステップ 1** System > Device Pool の順に選択します。

Find and List Device Pools ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用して、デバイス プールを検索します。

**ステップ 2** 最初の Find Device Pools where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- Device Pool Name
- Cisco CallManager Group
- Region



**(注)** このドロップダウン リスト ボックスで選択する基準によって、検索時に生成されるデバイス プールリストのソート方法が決まります。たとえば、Region を選択すると、Region 列が結果リストの左側の列に表示されます。

2 番目の Find Device Pools where ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準のいずれかを選択します。

- begins with (前方一致)
- contains (中間一致)
- ends with (後方一致)
- is exactly (完全一致)
- is not empty (非空白)
- is empty (空白)

**ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。また、ページごとに表示する項目の数も指定できます。



**ヒント** データベースに登録されているデバイス プールをすべて検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

検出されたデバイス プールのリストが、次の項目別に表示されます。

- Device Pool icon
- Device Pool Name
- CallManager Group
- Region
- Date/Time Group



(注) 該当するデバイス プールの横にあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、Find and List Device Pools ウィンドウから複数のデバイス プールを削除できます。Matching Records タイトルバーにあるチェックボックスをオンにして **Delete Selected** をクリックすると、ウィンドウ内のすべてのデバイス プールを削除できます。

**ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致する Device Pool icon、Device Pool name、CallManager Group、Region、または Date/Time Group をクリックします。

選択したデバイス プールがウィンドウに表示されます。

#### 追加情報

P.9-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## デバイス プールの設定

デバイス プールを Cisco CallManager データベースに追加、コピー、または更新する手順は、次のとおりです。新しいデバイス プールをデータベースに追加した後、そのデバイス プールを使用して、Cisco IP Phone、ゲートウェイ、Conference Bridge、トランスコーダ、メディアターミネーションポイント、ボイスメールポート、CTI ルートポイントなどのデバイスを設定できます。

### 始める前に

デバイス プールに対して次の項目を選択する場合は、デバイス プールを設定するとき、事前に、その項目を設定しておく必要があります。

- Cisco CallManager グループ (必須)。P.4-3 の「Cisco CallManager グループの設定」を参照してください。
- 日付/時間グループ (必須)。P.6-4 の「日付/時間グループの設定」を参照してください。
- リージョン (必須)。P.7-4 の「リージョンの設定」を参照してください。
- SRST リファレンス (オプション)。P.16-3 の「SRST リファレンスの設定」を参照してください。
- メディア リソース グループ リスト (オプション)。P.61-4 の「メディア リソース グループ リストの設定」を参照してください。
- MOH オーディオ ソース (オプション)。『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』の「Music On Hold オーディオ ソースの検索」を参照してください。
- 自動登録用のコーリング サーチ スペース (オプション)。P.43-3 の「コーリング サーチ スペースの設定」を参照してください。
- ソフトキー テンプレート (Cisco CallManager に付属している標準ソフトキー テンプレートを使用しない場合) (オプション)。P.77-4 の「非標準ソフトキー テンプレートの追加」を参照してください。

### 手順

---

**ステップ 1** System > Device Pool の順に選択します。

Find and List Device Pools ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の作業のいずれかを実行します。

- 既存のデバイス プールをコピーするには、対象となるデバイス プールを見つけて (P.9-2 の「デバイス プールの検索」を参照)、コピーするデバイス プールの横にある Copy ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 新しいデバイス プールを追加するには、Add New ボタンをクリックし、ステップ 3 に進みます。
- 既存のデバイス プールを更新するには、対象となるデバイス プールを見つけて (P.9-2 の「デバイス プールの検索」を参照)、ステップ 3 に進みます。

**ステップ 3** 適切なフィールドに値を入力します (表 9-1 を参照)。

**ステップ 4** Save をクリックして、デバイス プール情報をデータベースに保存します。

---

### 追加情報

P.9-8 の「関連項目」を参照してください。

## デバイス プールの設定値

表 9-1 では、デバイス プールの設定値を一覧表示し、説明します。関連する手順については、P.9-8 の「関連項目」を参照してください。

表 9-1 デバイス プールの設定値

フィールド名	説明
<b>デバイス プールの設定値</b>	
Device Pool Name	作成する新規デバイス プールの名前を入力します。
Cisco CallManager Group	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco CallManager Group を選択します。1 つの Cisco CallManager Group では、最高 3 つの Cisco CallManager の優先順位をリストで指定しています。リスト内の最初の Cisco CallManager が、そのグループのプライマリ Cisco CallManager となり、残りは、冗長性を確保するためのバックアップ Cisco CallManager になります。
Date/Time Group	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる日付/時間グループを選択します。日付/時間グループは、時間帯、および日付と時刻の表示形式を指定します。
Region	このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Cisco CallManager リージョンを選択します。Cisco CallManager リージョンの設定値は、リージョン内および他のリージョン間でコールに使用できる音声コーデックを指定します。
Softkey Template	ドロップダウン リスト ボックスから、デバイス プール内のデバイスに関連付けられているソフトキー テンプレートを選択します。
SRST Refernce	ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイス プール内のデバイスに割り当てる Survivable Remote Site Telephony (SRST) リファレンスを選択します。次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Disable</b> : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスは SRST リファレンス ゲートウェイを使用できなくなります。</li> <li>• <b>Use Default Gateway</b> : このオプションを選択すると、このデバイス プール内のデバイスはデフォルトの SRST ゲートウェイを使用します。</li> <li>• <b>Existing SRST references</b> : ドロップダウン リストから SRST リファレンスを選択すると、このデバイス プール内のデバイスはこの SRST リファレンス ゲートウェイを使用します。</li> </ul>
Calling Search Space for Auto-registration	Cisco CallManager に自動登録されるこのデバイス プール内のデバイスに割り当てる、コーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、コールを完了しようとするときにデバイスが検索できるパーティションを指定します。
Media Resource Group List	ドロップダウン リスト ボックスから、メディア リソース グループ リストを選択します。メディア リソース グループ リストは、優先順位順に並べられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、メディア リソース グループ リストに定義されている優先順位にしたがって、使用可能なメディア リソース グループから、必要なメディア リソース (たとえば、music on hold サーバ、トランスコーダ、Conference Bridge) を選択します。
Network Hold MOH Audio Source	ネットワークが保留操作を開始するときに、music on hold (MOH) に使用するオーディオ ソースを選択します。

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)








フィールド名	説明
User Hold MOH Audio Source	ユーザが保留操作を開始するときに、music on hold (MOH) に使用するオーディオ ソースを選択します。
Network Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話機とゲートウェイに関連したロケールを選択します。そのネットワーク ロケールは、特定地域にあるデバイス プールの電話機とゲートウェイが使用するトーンおよび断続周期の定義を含んでいます。このデバイス プールを使用する電話機とゲートウェイのすべてがサポートしているネットワーク ロケールを選択してください。</p> <p> (注) ユーザがネットワーク ロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager clusterwide パラメータでデフォルト ネットワーク ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p> <p> (注) 関連するデバイスによってサポートされているインストール済みのネットワーク ロケールのみを選択してください。このリストにはこの設定に使用できるネットワーク ロケールがすべて示されていますが、そのすべてがインストールされているわけではありません。デバイスは、ファームウェアにおいてサポートしていないネットワーク ロケールと関連付けられると、起動に失敗します。</p>
User Locale	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、デバイス プールの中の電話機とゲートウェイに関連するロケールを選択します。そのユーザ ロケールは、言語とフォントを含んだ、ユーザをサポートする一連の詳細情報を識別します。</p> <p> (注) ユーザがユーザ ロケールを選択しない場合は、Cisco CallManager clusterwide パラメータでデフォルト ユーザ ロケールとして指定されたロケールが適用されます。</p>
Connection Monitor Duration	<p>この設定値は、IP Phone が SRST から登録解除され Cisco CallManager に再登録される前に、Cisco CallManager への接続を監視する時間を定義します。</p> <p>デフォルト値は 120 秒で、Connection Monitor Duration エンタープライズ パラメータに属します。</p> <p>コネクション モニタを使用不可にする (値を 0 に変更する) 必要がある場合、またはコネクション モニタの時間を延長する場合は、この設定値を変更します。</p> <p> (注) Connection Monitor Duration の値を変更した場合、その値は更新されたデバイス プールだけに適用されます。それ以外のすべてのデバイスは、固有の Connection Monitor Duration フィールドの値またはエンタープライズ パラメータで設定された値を使用します。</p> <p>詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「SRST リファレンス」を参照してください。</p>

表 9-1 デバイス プールの設定値 (続き)

フィールド名	説明
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) 情報</b>	
MLPP Indication	<p>この設定値は、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、優先トーンを再生できるデバイス プール内のデバイスで MLPP の機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスの次のオプションから、このデバイス プール内のデバイスへ割り当てる設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイス プールは、MLPP Indication Status エンタープライズパラメータから MLPP Indication 設定値を取得します。</li> <li>• <b>Off</b> : このデバイス プール内のデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理しません。</li> <li>• <b>On</b> : このデバイス プール内のデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理します。</li> </ul> <p> (注) 次の設定値の組み合わせでデバイス プールを設定しないでください。MLPP Preemption が <i>Forceful</i> に設定されている状態で、MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> に設定 (デフォルトが <i>Off</i> の場合)。</p> <p> (注) エンタープライズパラメータ、デバイス プール、またはデバイス レベルで MLPP Indication をオンにすると、MLPP Indication をデバイスに対してオフ (上書き) にしない限り、デバイスで回線に対する通常の Ring Setting が動作しません。</p>
MLPP Preemption	<p>この設定値は、デバイスが MLPP 優先コールを発信する場合、進行中のコールに割り込みできるデバイス プール内のデバイスで MLPP の機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスの次のオプションから、このデバイス プール内のデバイスへ割り当てる設定値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : このデバイス プールは、MLPP Preemption Setting エンタープライズパラメータから MLPP Preemption 設定値を取得します。</li> <li>• <b>Disabled</b> : 優先度の高いコールの終了が必要な場合、このデバイス プール内のデバイスは、優先度の低いコールを割り込みできません。</li> <li>• <b>Forceful</b> : このデバイス プール内のデバイスは、優先度の高いコールの終了が必要な場合でも、優先度の低いコールを割り込みできます。</li> </ul> <p> (注) 次の設定値の組み合わせでデバイス プールを設定しないでください。MLPP Preemption が <i>Forceful</i> に設定されている状態で、MLPP Indication を <i>Off</i> または <i>Default</i> に設定 (デフォルトが <i>Off</i> の場合)。</p>
MLPP Domain	<p>このデバイス プールに関連する MLPP ドメインの値を 16 進数 (0 ~ FFFFFFFF) で入力します。このフィールドがブランクの場合、このデバイス プールは MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータの値セットから、MLPP ドメインを取得します。</p>

## デバイス プールの削除

Cisco CallManager データベースからデバイス プールを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

デバイスが割り当てられているデバイス プール、Device Defaults 設定に使用されるデバイス プール、またはデータベース内の唯一のデバイス プールなどは、削除できません。使用中のデバイス プールを削除しようとする、エラー メッセージが表示されます。現在使用中のデバイス プールを削除する場合は、事前に、次のどちらかまたは両方の作業を実行しておく必要があります。

- デバイスを更新して別のデバイス プールに割り当てる。P.70-6 の「電話機の削除」を参照してください。
- 削除するデバイス プールに割り当てられているデバイスを削除する。P.70-6 の「電話機の削除」を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** P.9-2 の「デバイス プールの検索」の手順を使用して、デバイス プールを検索します。
  - ステップ 2** 一致するレコードのリストから、削除するデバイス プールを選択します。
  - ステップ 3** **Delete Selected** をクリックします。
  - ステップ 4** 削除操作を確認するように求められたら、**OK** をクリックして削除します。削除操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。
- 

### 追加情報

P.9-8 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- デバイス プールの設定 (P.9-1)
- デバイス プールの検索 (P.9-2)
- デバイス プールの設定 (P.9-4)
- デバイス プールの削除 (P.9-8)